

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 愛媛県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	玉川町立鴨部小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	22	21	17	24	19	22	1	126	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、確かな表現力を身に付けた児童の育成  
～国語科における表現力の育成を中心課題として～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施教科：国語科  
実施学年：3・4年生のT・Tを中心に全学年  
学校として、過去10年間、国語科を中心にして研究を進めてきており、研究の継続が望ましいと思われたため。  
中学年で児童の「書く」「話す」などの能力差が顕著になると思われたため。  
また、国語のティーム・ティーチングの研究は過去にあまりなく、研究開発していく価値が高いと思われたため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

テーマ

- 主体的に学習しようとする児童の育成
- 基礎的・基本的事項を身に付けた児童の育成

研究の見通し

本校では、学力を「生涯にわたって学び続けることができるための力」と捉えた。知識や技能など、客観的に判断しやすい、いわゆる狭い意味での学力は、その一つである。しかし、学力はそれだけではなく、学ぼうとする意欲、学び方の習得、他者や事物とのかかわりなども含まれる。本校では、知識や技能などの学力を「基礎的・基本的事項」と呼ぶことにし、「主体的に学習しようとする児童の育成」と「基礎的・基本的事項を身に付けた児童の育成」を研究のねらいとする。双方は、相反するものではなく、互いが絡み合い、より効果的に展開していくものであると考えている。

主体的に学ぶ力

- 学ぼうとする意欲
- 学び方の習得
- 事象や他者とのかかわり

基礎的・基本的事項

- 学ぶための基礎となる知識や技能
- 客観的に見ることのできる力

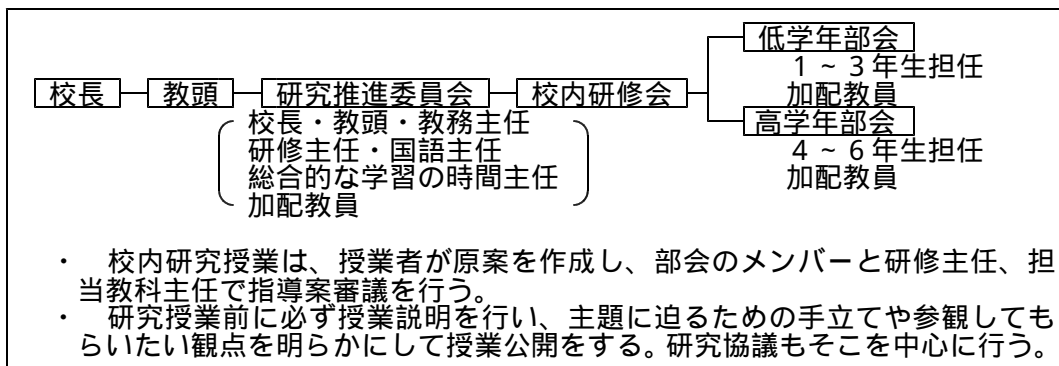
生涯にわたって学び続けるための力

<本校の考える学力>

平成 15 年度	研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習方法、学習過程、学習材の工夫</li> <li>・ 課題別学習の実施</li> <li>・ 少人数指導の実施</li> <li>・ 個に応じた指導の工夫</li> <li>・ 『愛唱詩集』の活用と「ひびけ読み声集会」の実施</li> <li>・ 朝の時間の活用</li> <li>・ 全校漢字テストの実施</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年 度	テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的に学習しようとする児童の育成</li> <li>・ 基礎的・基本的事項を身に付けた児童の育成</li> </ul> 研究の見通し 平成15年度に引き続き、継続研究を行う。様々な取組により、児童に「基礎的・基本的事項」は定着しつつある。しかしまだまだ十分ではない。児童自らの学習意欲を引き出す場や授業を工夫することで、基礎的・基本的事項」をより一層定着させていきたい。 また、研究主題にもある「確かな表現力」育成のため、国語科を中心として、「伝え合う力」の育成にも力を注いでいきたい。 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習方法、学習過程、学習材の工夫</li> <li>・ 課題別学習の実施</li> <li>・ 少人数指導の実施</li> <li>・ 個に応じた指導の工夫</li> <li>・ 国語科を中心とした伝え合う力の育成</li> <li>・ 集会活動を利用した表現力育成</li> <li>・ 朝の時間の活用</li> <li>・ 全校漢字テストの実施</li> </ul>
--------------------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

日々の授業、あるいは学校行事に関連する指導で、子どもたちが主体的に、そして意欲的に活動に取り組める支援を心掛けてきた。その結果、与えられた吹き出し以外に自作して登場人物の心情を書き込んだり、新出漢字を使った熟語を国語辞典から調べてノートに記入したりするなどの活動が見られるようになってきた。活動に対して積極的、意欲的に取り組む姿が見られるようになってきたと考えられる。今後も、学ぶ意欲、児童の主体性を大切にした活動を組み立てていきたい。

授業において、あるいは朝の活動において基礎的・基本的事項の定着を試みできた。できた、わかったという達成感を味わうことで、自分に自信をもち、積極的に活動できるようになってきた。

ワークシート等により、習熟の程度に応じた指導を行ってきた。ワークシートに記した自分の意見や感想を、友達や教師から肯定的に見られることにより、「書く」ことに関しては自信をもつ児童が増加してきた。また、書いた内容を堂々と発表できる児童が増えてきた。

中学年におけるT・Tの授業では、少人数学習、課題別学習、そして個や習熟の程度に応じた指導、支援に努めてきた。その結果、児童のアンケートからは、学習内容の理解や、学習意欲などで、ある程度の成果を収めることができた。何よりも、授業を楽しみにしている児童が多いことが最大の成果である。

中学年の国語科では、教師間の連絡や連携を密にして指導、支援に当たってきた。その成果の一つとして、中学年国語科のT・T年間指導計画を作成することができた。今後も授業実践を通して、さらに効率的、効果的なものにしていきたい。

校内研修や授業研修を行い、人的・時間的制限の中で個に応じた手だての工夫をすることにより、児童一人ひとりが基礎的・基本的事項を身に付ける過程で、児童に身に付けさせたい学力や、教師自らの指導力についても認識し合うことができた。

## 2. 今後の課題

国語科において、言語事項（特に漢字や言葉の意味）の理解が低い児童もいるので、今後も継続して基礎的・基本的事項の定着が図られるような活動を行っていききたい。その際には、単に繰り返して指導するだけではなく、児童の意欲化を図る手立ても考えていきたい。

話すことが苦手な児童、自信がもてない児童、不慣れな児童が多い。自信をもって話すことのできる児童を育成していきたい。そのために、児童同士、あるいは児童と教師のコミュニケーションが図られるような場の工夫を行っていききたい。また、国語科の授業においても、伝え合う力を伸ばすべく、「話す・聞く」活動に焦点を当てて研究実践を行いたい。

授業の場面だけでなく日々の活動の中で、学級担任と加配教員との連携、コミュニケーションを大切にし、児童のために何でも語り合える人間関係作りにも努めていくことも大切であると感じた。

### 学力等把握のための学校としての取組

- CRT学力検査
- ・ 国語科と算数科で実施（今年度の5年生は社会科、理科も実施）
  - ・ 2月中旬実施
- 全校漢字テスト
- ・ 副教材「文字のけいこ」から50問出題
  - ・ 毎学期末に実施

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 学力向上フロンティア事業研究発表会の開催  
 H15・10・30 鴨部小学校（本校）  
 学力向上フロンティア事業地区協議会での取組発表  
 H15・6・12 今治市立立花小学校  
 H16・1・27 今治市立立花中学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                   13～18学級                       19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                   生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                   体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無